(別記様式)

令和６年度　府立北桑田高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（　計画段階　実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
１ 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応した,特色ある教育の創出 ２　少人数教育により個性を活かし,自ら動き,挑戦し,進路目標に応じた学力･能力を身につけ,将来を切り拓いていくことができる生徒を育てる ３　地域や大学等との連携により探求を深め,「広い視野と高い理想」「未知への興味・課題解決の創造性」を育てる ４　郷土の自然や文化を学び,地域や京都府を誇りに思い,前向きに地域と係わり貢献しようとする「地域の担い手」「森の担い手」を育てる	・少人数を活かした個に応じた学習指導,進路指導を進めることができた。予備校サテライト講座,進路講習,模試等を効果的に配分し,難関大学,公務員をはじめ,ほとんどの生徒が希望進路を実現できた ･ICT教育推進を目標に掲げ,タブレットを有効利用した授業の展開やICTを有効活用した授業研究など活発に授業改善を試みる教職員が世代を超えて着実に増加している ･HP,メール,SNS,広報誌,テレビ,新聞等による本校からの情報発信を積極的に行った。本校の魅力を伝える広報活動と入寮生徒の定員に合わせた生徒募集活動と連動させる必要がある ･地元に加え他地域や全国募集による入学生の確保に向けた取組を進めたが,寮整備や通学方法など,更なる条件整備を行う必要がある ･前年度以上に働き方改革を推進するとともに,本校の特色ある教育活動を損なうことなく一層の進展を図る必要がある ･全国的にも稀な小規模校における部活動の成功例となるような活動実績を残すとともに生徒の部活動における充実度,満足度を上げる	１ スクールポリシーに則り地域連携や高大連携等を深め,更なる学校の特色化に取り組む ２ 学習指導要領の実施やICT教育の推進のため,本校に適した方策を研究し,教職員研修の充実を図る ３ 多様な生徒や進路希望に対し,少人数教育を活かしたきめ細かな指導とともに,地域や大学等との連携により探究を深め,自ら考え,動き,解決しようとする機会を増し進路実現に繋げる ４ 本校や地域の発展にも繋がる｢SDGs｣を教育活動の中心に捉え,学校運営協議会による地元幼小中学校や行政・地域団体等との連携を進め,地域に信頼され,地域の活性化に貢献できる取組を更に推進する ５ 学科,カリキュラム,学校行事,特別活動,部活動などの特色ある教育活動について,積極的な情報発信を行い,組織的,効果的な生徒募集につなげる ６ 喫緊の課題として遠方からの入学者が本校を選択できるよう環境整備に取り組む

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>重点目標</th><th>具体的方策</th><th colspan="3">評価</th><th>成果と課題</th></tr>
<tr><td rowspan="8">組織運営</td><td rowspan="3">学校活性化の推進</td><td>普通科・京都フォレスト科の教育内容の充実</td><td>A</td><td rowspan="3">A</td><td rowspan="8">A</td><td rowspan="8">京都フォレスト科、普通科におけるそれぞれの特徴的なカリキュラムや授業形態を最大限に活かして学びを深めさせることができた。ICT活用を授業以外にも校務で活用できるシステムと運用スキルが教職員に根付いてきた。京都府立大学系属高校としての設置目的に合わせた計画的な準備と教育実践を並行して行う。</td></tr>
<tr><td>生徒募集に係る諸制度と校内体制の見直し</td><td>B</td></tr>
<tr><td>地域連携や大学等との連携による特色化と深い学びの充実</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">「チーム北桑田」としての組織的で効率的な学校運営</td><td>校内各種会議の機能的運営</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td></tr>
<tr><td>分掌間･教科間･学科間等,教職員間の連携強化</td><td>A</td></tr>
<tr><td>働き方改革の推進</td><td>退勤時間を意識した業務の効率化･合理化</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教職員研修の充実</td><td>ICT教育関連の研究と教職員研修の充実</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td></tr>
<tr><td>多様な社会情勢を生き抜く「確かな力」を養う学校づくり</td><td>A</td></tr>
<tr><td>教育課程の編成と実施</td><td>生徒･保護者･地域のニーズと期待に応じた教育課程の編成･再考と実施</td><td>教科主任会議を中心に課題,修正点の把握と改善を図り,令和７年度以降の教育課程編成に反映させる</td><td colspan="2">B</td><td rowspan="3">B</td><td>府立大係属校化に伴い、総務企画部及び教科主任会議と連携し、新課程３年目の運用と令和７年度実施教育課程の編成に努めた。次年度も新課程運用と同時に係属校化に伴う課題、修正点の把握に努め、令和８年度以降の教育課程編成に活かす。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学習指導</td><td rowspan="2">生徒の学習意欲の維持・向上</td><td>教師が生徒と共有する時間確保のために,主管会議の精選・教育環境の整備・教育計画の工夫と実現</td><td>A</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">主管会議の時間短縮、教育計画の工夫等、臨機応変に対応することで一定の成果が得られた。生徒の学習意欲の維持・向上については、ICTの有効的な活用と併せて今後も課題解決に向けた工夫が必要となる。</td></tr>
<tr><td>生徒が能動的に授業・学習に取り組める環境の確保・整備</td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="2">総務企画</td><td>学校経営計画に基づいて展開される特色ある教育活動の記録と広報</td><td>両学科の学習内容及び学校行事,部活動,地域連携等,全校生徒が創る教育活動と,そこに学ぶ生徒の姿を記録し,広く地域社会に発信する</td><td>A</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">両学科統合・複数年使用可能仕様『学校案内』への移行完成年度。前年度の廃棄分コストカット及び年度当初の校正作業を大幅に改善できた。また、広報誌も電子配布先と紙配布先に再仕分けしたことで、ここでもコストと労力の削減を実現できた。並行して、本年度、学校ＨＰの全面更新、公式Ｉｎｓｔａｇｒａｍの充実が学校として図られ、広報分野においてスクラップ＆ビルドが完了した。
一方、中学生向け進路選択の一助となるよう広報しているにも関わらず、意図が浸透せず、受検者数増に繋げることができなかった。中学生とその保護者に伝わる広報戦略の工夫が必要である。</td></tr>
<tr><td>次年度入学生の定員充足率70％,美山中学校・京都京北小中学校からの進学率75％達成</td><td>学校説明会の運営や個別進路相談,広報物の発行等を通して,本校を希望する中学生及びその保護者に対して進路指導の一助となる情報提供を対費用効果を考慮しつつ効果的に行う</td><td>B</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>重点目標</th><th>具体的方策</th><th colspan="3">評価</th><th>成果と課題</th></tr>
<tr><td rowspan="3">人権教育</td><td>生徒の人権意識の向上</td><td>生徒の実態に即した人権教育の実施と人権尊重の意識や差別を許さない態度の育成</td><td>A</td><td>A</td><td rowspan="3">A</td><td rowspan="3">人権学習を各学年とも、年間2回実施することができた。人権学習後の感想文は、自分の生き方についてしっかり考えられているものが多かった。
教職員研修は「同和問題」をテーマに実施した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">分掌,特に学年との連携を密にする教職員研修の充実</td><td>各学年の課題に対する適切な対応</td><td>B</td><td rowspan="2">A</td></tr>
<tr><td>教職員の世代交代を踏まえ,これまでの人権教育の成果と課題を引き継ぐ取組の推進</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ICT教育推進</td><td>BYOD端末導入や端末・アカウント管理体制の構築</td><td>BYODの導入から3年目を迎え,特定の教職員に負担が偏らないよう,端末の導入に関する体制や端末・アカウントの管理体制を構築</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="2">BYOD端末導入初年度の入学生が卒業することになり、導入の作業から卒業処理の作業まで一通り経験することができた。運用していく中で特定の教職員に負担が大きくかからないような端末管理・アカウント管理の体制を敷くことができた。
配布文書のペーパーレス化を推進し、全教職員の意識も高揚させることができた。</td></tr>
<tr><td>さらなる業務のICT化の推進</td><td>生徒・保護者に配布する文書のペーパーレス化を推進すべく,Teamsや保護者連絡ツールを使用できる環境整備と配信に関する運用体制を構築</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="3">進路指導</td><td rowspan="3">３年間を見通した進路指導の推進,主体的に進路を切り拓く力の育成,進路に関する情報提供の充実</td><td>学年部,各教科と連携し,生徒一人ひとりの適性・能力を的確に把握し,少人数教育を活かしたきめ細かな指導を通して,希望進路の実現に必要な能力の向上を図る</td><td>A</td><td rowspan="3">A</td><td rowspan="3">A</td><td rowspan="3">多くの進路行事を通して、生徒一人ひとりの適性・能力・進路希望の把握に努め、きめ細かな進路指導を行うことで、多くの生徒が主体的に進路を切り拓くことができた。生徒・保護者に対する進路情報の提供をより充実させ、認識の不一致を早期に解消しておくことが喫緊の課題である。</td></tr>
<tr><td>進学講習,サテライト講座,模擬試験等を活用し,学ぶ姿勢の確立や基礎学力の定着を図る</td><td>A</td></tr>
<tr><td>保護者向け進路講演会・進路説明会などを通して,保護者への情報提供の充実を図る</td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="4">生徒指導</td><td rowspan="3">基本的生活習慣の確立と規範意識・社会性の養成</td><td>「挨拶」「正しい言葉遣い」「身だしなみを整える」等当たり前のことが当たり前にできるようにする</td><td>A</td><td rowspan="3">A</td><td rowspan="4">A</td><td rowspan="4">今年度は朝の立哨に生徒部以外の先生方にも参加していただき身だしなみ等も大きく乱れることなく生徒指導事象も少なく落ち着いた学校生活を送ることができた。京都府警からの交通安全教室も実施し大きな事故はなかった。来年度も当たり前の指導を継続する。</td></tr>
<tr><td>SNS等でのトラブルを防げるよう様々な場面で啓発を行う</td><td>A</td></tr>
<tr><td>規則違反やマナー違反・不正を許さず安心で安全な学校生活の推進</td><td>A</td></tr>
<tr><td>安全教育の徹底</td><td>定期的な交通安全指導に加え生徒会とともに交通安全を推進できるようにする</td><td colspan="2">B</td></tr>
</table>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
特別活動	生徒会活動の充実	既存の行事だけでなく全校生徒が更に充実した学校生活を送れるよう生徒会が主体的に活動する	B	B	B	例年通り既存の行事に関しては生徒会が中心となり主体的に活動することができたが、新たな取り組み等はあまりできなかった。来年度は生徒会がもっと活発に動けるように取り組みたい。
		学校祭でもICTを効果的に活用できるよう取り組み内容を検討する	A			
健康・安全教育	保健管理、 保健教育の充実	配布物の持ち帰り,分別等,ゴミの出し方について指導し,週３日の平常清掃をしっかり実施する	A	A	A	少人数ではあるが、清掃箇所を分担して校内を清潔に保つことができた。検診結果によって生徒への受診勧告は出しているが、受診報告の提出率は思わしくなく、課題が残る。保健学習は学年に応じて実施できた。生徒の受講態度も良く、きちんと内容を理解できている様子である。特別支援教育に関しては、教育相談会議を通じてオンライン授業の導入など個に応じた教育を進めることができた。
		各種健診結果により,生徒への医療機関受診を促進する	B			
		薬物乱用防止教育や性教育を実施し,生徒の健康に関する意識の向上を図る	A			
	特別な支援を要する生徒への指導・支援の充実	生徒の状況把握を徹底し,担任団とも連携して情報の共有を図り,個々の生徒への適切な指導と支援に努める	A	A		
道徳教育	規律･規範を重んじる姿勢の養成	規則や公共の場におけるﾏﾅｰを守る態度の育成	A	A	A	授業や学校行事を通して、望ましい人間関係や人間性について考え、実践する機会を持つことができた。概ねルールやマナーに関して大きな問題は無かった。
	愛情を持って人に接する人間性の養成	各教科や各分掌との連携を図り,人間として望ましい在り方について考える姿勢の育成	A			
家庭･地域 との連携 (PTA)	保護者･地域との連携のより一層の強化	地域から注目され,信頼を得られる｢地域創生推進校｣を目指し,地域やＰＴＡと連携した魅力ある学校づくりを行う	A	A	A	会員数の減少に伴い役員選出が困難になってきている。役員定数について現状に沿ったPTA規約の改正を行った。 議題の精選を行い、会議の開催数を減らすことができた。 イベントを、予定どおり開催することができた。文化祭、耐久走での食品提供では多くの会員の協力を得て実施できた。
	地域への積極的な広報活動の展開	｢ＰＴＡだより｣等の広報発信を行い,｢みがく､かがやく。｣の実践を発信する	A			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
学校図書館	図書・電子資料の適切な活用力の醸成,著作権意識の向上・豊かな読書生活への助長	資料の適切な利用促進	B	A	A	毎月の図書館だよりを通して、著作権について情報発信をすることができた。また、図書館イベントを通して、読書推進にも努めた。今後は、図書・電子資料などの情報資源の活用について発信していく必要がある。
		著作権意識向上のための情報発信	A			
		読書活動の推進,読解力向上のための読書推進	A			
	地域文化の資料・情報収集に努め,地域活性化への貢献を図る	地域の特色である林業を中心に地域に関わる資料の収集,展示	A	A		
農場部	「SDGs」持続可能型社会や組織の構築を目指し目標を実現させる教育活動の実践	産学官連携した教育活動の実践	A	A	A	教員の連携を深め、課題の解決に当たった。提携校とは学生の受け入れや、体験学習等を行い実践的な学びを深められた。技能研修への参加など、教員・生徒共に進んで参加することができた。各種大会への参加、資格取得においては、教員間で指導方法について試行錯誤する中、生徒の力を伸ばす指導を行い、成績に繋げることができた。各種事業への取組が多くなっており、事業の精選や体制の見直しが今後必要である。
		提携校（府立大学,府立林業大学校）との連携事業の強化	A			
		職業教育カリキュラムマネジメントの実践	B			
	京都フォレスト科の立地条件や環境・施設・設備等を十分に活かせる教育活動の実践	地域環境・地域資源を活かした教育活動の実践	A	A		
		知識や技術の向上を目指した研修会の実施	A			
		安全マニュアルの作成	B			
	生徒・保護者・地域・社会等の京都フォレスト科に対するニーズと期待に応える教育活動を実践	適時,適切な全体指導と個別指導の実践	A	A		
		資格取得の奨励と対策講座の実践	A			
寮務部	安心で信頼され,円滑な寮生活を送るためのルールや規則の徹底	寮生徒とのコミュニケーションを充実させ,信頼される人間関係を構築し,きめ細やかな生活指導による規則の遵守	B	A	A	規則・ルールは守れ指導件数も少なかった。生活習慣の向上が必要で指導の継続が必要である。設備面では可能な範囲で修繕や更新ができたが、老朽化も進み寮を全体的に改修が必要な時期にきているのが課題である。
	安全衛生と快適な生活環境の確保及び施設の充実	一人ひとりが健康維持・増進と安全衛生の確保に勤め,施設・設備の点検と改善による快適な生活環境の確保	A			
事務部	少ない予算を活かした、効率的な予算執行	生徒数の減少に伴う運営費予算の削減を見据えて,光熱費予算等の無駄を省く	A	A	A	老朽照明器具のＬＥＤ器具への交換、空調機器の更新や新設など、消費電力の削減が実現できる機器への更新工事を積極的におこない、光熱費予算の削減に努めた。
		施設設備の老朽化に対して,状況を分析し更新を含めた効果的な対応を行う	A			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
第１学年	適切な生活習慣の確立と規範意識の育成に努める	授業を受けるのに適した,落ち着いた学習環境を整備する	A	A	A	生活習慣の確立と学習環境の整備を重点的に進めた。支援を要する生徒については、教育相談会議などの諸会議と連携して学校全体で情報を共有し、家庭と学校の連携体制を構築することができた。また、部活動加入を促し、年度途中から部活動へ入部する生徒が増加した。一方で、授業課題の提出状況や、挨拶、服装等、基本的な生活習慣の確立が不十分であり、社会に参画するための規範意識の育成を継続して指導していきたい。
		服装・挨拶・言葉使いなど,高校生としてのふさわしい態度,および自己と他者の双方を尊重する規範意識を育成する	B			
	学習指導の充実と自主活動への積極的参加を促す	基礎学力の向上のため,家庭での学習習慣の定着を図る	B	A		
		主体的に学校生活に取り組むための一環として,部活動への積極的加入を促す	A			
		分掌・教科・地域・家庭との連携を密にし,学習と部活動の両立を図る	A			
		保健部や教務部と連携して,支援を要する生徒の情報を共有し,生徒の実態に応じた適切な支援をおこなう	A			
第２学年	適切な生活習慣を確立し、規律意識及び社会人としてふさわしい態度を育成する	学校生活を通して規範意識を高め,言葉遣いや服装など,高校生としてふさわしい態度の育成を行う	B	B	A	学習と部活動等を両立し、意欲的に学校生活を送ることができている。研修旅行や生徒会行事では主体的に取り組み、クラスや学年が協力して有意義な活動を行うことができた。自らの進路について考え、行動する機会を生徒一人ひとりが持てるよう、きめ細かな指導を心がけた。引き続き、進路実現に繋げていきたい。
		授業規律を確保し,家庭学習を習慣化することによって学習意欲を向上させる	B			
	学習や部活動,学校行事等,充実した学校生活がそれぞれの進路実現の基盤となるよう導く	学校行事を通して仲間意識を向上させ,学校の中核を担う学年としてリーダーシップや協調性を育成する	A	A		
		具体的な進路目標を設定し,適切な時期に面談を行うことで,希望進路を具体化し,進路実現への助言等を行う	A			
第３学年	希望進路実現に向けた指導の充実	日々の授業を基本としながら,放課後の補習,Web学習サービス等を積極的に活用し,確かな学力の育成を図る。また,保護者との連携を密にして,希望進路実現につなげる	A	A	A	各分掌、教科と連携し、一人ひとりの生徒の希望する進路を概ね達成することができた。最上級生として、日々の学校生活や学校行事等でそれぞれが活躍する場を設けることができた。一方、多くの生徒に見通しと広い視野をもって行動することに課題が残った。3年間を通して社会性を育む取り組みの一層の充実が望ましい。
	社会人基礎力の向上	学校生活や行事等を通じて,学年としての仲間意識や協調性の向上を図る。また,最上級生としてリーダーシップ及び他人を思いやる心の育成を図る	A	B		
		自身の行動に対する責任と自覚を促し,他者に対する礼儀,提出物の期日厳守等を確実に指導し,社会人としての基礎力の向上を図る	B			

教科	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
国語科	学習習慣を確立することによる基礎学力の定着と生徒が興味関心を持ち,主体的に取り組むことのできる授業を目指す	・計画的,継続的な小テストや学習課題を実施し,基礎言語力を向上させる	A	A	B	国語力の基盤となる漢字・語彙の定着のために、小テストや週末課題を取り入れることができた。 外部講師と連携し、講演や体験事業などを実施して、日々の学びを広げる取組ができた。また、他校の先生と情報交換を行うことができた。 進路実現に向けた能力の養成を視野に入れ、授業内で書くこと、話すことの指導を積極的に行えた。授業外でも進路実現に向けた個別指導の行い、学習の支援ができた。 ICT機器の活用については、引き続き工夫していきたい。
		・授業での学びを広げ,深めるために,外部講師と連携した取組を実施する	A			
		・ICT機器を効果的に活用し,学びの意欲や理解度を向上させる	B			
	実生活で生きて働く論理的思考と表現力の育成と希望進路実現のために支援する	・日常的に読み,書く機会を増やし,主体的な言語活動を通じて表現力を育成する	A	B		
		・自己を見つめ,分析して,表現することで希望進路を実現できるように指導する	B			
		・各種コンクールへの参加を推進する	B			
地歴･公民科	歴史,地理,公民各科目において,時事問題とのつながりを意識した授業展開を行い,主権者としての意識高揚をはかる	「教科書をじっくり読んで、アンダーライン」「板書・ワークシートを写すだけでなく,メモの追記」を徹底し,社会の仕組みに関する知識理解を深化させる	B	A	A	授業では、知識・理解、資料解釈に重点を置き、長期休業を活用して小論文・レポート課題を課すことで思考力・表現力を磨く指導計画が定着した。結果、主権者教育に関するコンクールにおいて最優秀賞、学校賞を含む10作品が入選した。また、オンライン講座を活用した家庭での進学対策に完全移行し、進路補習に係る生徒の時間的負荷の軽減を行った。受験科目が多様化する中で、暗記的要素については、オンライン講座を有効に活用していく方向をさらにすすめる。
		『大単元・小単元・本時のねらい』を明確にし,資料解釈したり,まとめたり,表現する学習活動を通して,賛否の分かれる時事問題に関して最善解を考えるよう授業改善を行う	A			
		地方公共団体,各公益団体,大学等が主催する主権者教育,公共政策分野の小論文コンクール等に積極的に応募し,上位入選を目指すことで,学習成果を可視化する	A			
数学科	コースに応じた授業展開で基礎力,応用力を育成し,新たな大学入試制度への対応を図り,希望進路実現へと導く	多様な生徒の実態に応じ,放課後等の適切な補充指導の実施	A	B	B	ICT機器を活用し、授業及び家庭学習の効率化を進めた。生徒の実情に合わせた補習指導を行い、最大限の効果を狙うことができた。基礎学力・応用力はより一層の充実が必要。
		定期的な課題提出,小テストの実施による基礎学力の定着	B			
		進路希望に合わせた応用力の充実を推進	B			
		スタディサプリと併せて進学補習の充実	A			
理科	生徒の興味・関心・意欲を引き出すような授業の工夫をすることにより,基礎学力の定着並びに科学的思考力の育成を図る	各分野の特性,生徒の状況等に応じて,説明用プリント,問題演習,小テストなどの教材を効果的に使用することにより,生徒の学習意欲を向上させ,基礎学力の定着を目指す	A	A	A	各学年、コースの生徒の状況に応じた指導を行った。基礎科目では基本的知識の確実な習得に加えてレポート作成等による表現力向上を図り、発展的科目では思考力向上により進路実現に結びつくよう指導するなど工夫した。
		ICT機器の活用や計画的な観察・実験を通して,生徒の興味・関心を引き出し,科学的思考力や表現力を育成する	B			

教科	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
保健体育科	基礎体力・運動技能の向上と健康の保持増進を図る	規律ある効率的で個々に応じた授業展開により体力と運動技能を向上する	A	A	A	保健や体育理論ではICTを活用して授業を行えた。体育実技においても種目によってはICTを活用したものもあったが運動技能の向上とまではいかなかった。 今年度も生徒が積極的に授業に取り組むことができ、体力の向上や運動の楽しさを伝えることができた。
		様々な種目においてICTを活用し運動技能の向上に取り組めるよう活用方法を検討し実行する	B			
	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を行い,運動の楽しさや喜びを味わうと共に,公正,協力,責任や健康,安全に留意する態度を身につけさせる	仲間との協力やコミュニケーションから様々な事に目配り・気配りできる力を育成する	B	A		
		グループ学習で主体的・対話的に取り組むことによるリーダーシップ・フォロワーシップの育成	A			
		健康運動では,運動やスポーツの多様な楽しみ方を知り,生涯にわたって親しめるスポーツを見つける	A			
芸術科	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る	芸術表現の基本技術の習得	A	B	B	机間巡視を大切にし、個々の生徒が表現したいテーマに即した指導ができた。 前年度の優秀作品を美術室に常設展示することで、作品制作に対する意識を高めることができた。
		芸術作品の基本的な鑑賞力の育成	B			
		芸術を愛好する気持ちの育成	A			
		一人一人と向き合い,創造力や感性を育むゆとりある年間指導計画の実施	B			
英語科	多様な生徒の実態や生徒の希望進路に応じた指導の実践	「予習⇒授業⇒復習」の学習サイクルを確立させるとともに,小テストをこまめに実施する	B	A	A	実用英語技能検定に合格に向け、自由英作文や面接の対策を個別に何度も行い、CEFRレベルA2以上の資格保持者の割合を昨年度同様まで増加させることができた。 進学対策として、講習・個別指導を充実させ、多様な進路希望を持つ本校の生徒のニーズに答えることができた。また、学びなおしや発展的な内容の学習を目的としたスタディサプリの活用方法を考案し、実施することができた。 ALTが授業する機会が本年度は少なかったことが課題であり、カリキュラムマネジメントを行い、ALTを活用した授業の時間を次年度は増加させていきたい。
		大学入試に対応できる学力の育成を目的とした進学講習を実施する。また,スタディーサプリを最大限活用し,学力の向上につなげる	A			
	「４技能５領域（聞くこと,読むこと,話すこと［やり取り］,話すこと［発表］,書くこと）」の育成に向けた指導の推進	英語で生徒が自らの意見や考えを発信するための力を向上させるために,ALTを積極的に活用する	B	B		
		4技能を測定可能な実用英語技能検定やGTECを校内で実施し,CEFRレベルA2以上の資格（英検準2級以上）やスコア（GTECスコア　690以上）の取得に向けた,筆記試験や面接・口頭試問の指導を推進する	A			

教科	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
家庭科	自らの生活課題を解決するために必要な基礎的な知識と技術の育成を図る	生活を主体的に営むために必要な知識と技術を身につくよう課題を工夫する	A	B	A	地域の福祉施設や行政機関、地域団体等と連携し、地域について学び、地域の活性化に貢献できる取組を進めることができた。茶道や華道等、伝統文化に触れる機会を持つことができ、中でも和菓子作りを国際交流の活動に活かす取組を行った。今後も生徒が主体的に活動できるよう授業内容を工夫したい。
		生涯を見通し,生活の中の自らの課題を解決する力を養う	B			
		ICTを効果的に活用し,主体的な学びを工夫する	B			
	地域の人々との交流の機会を通して地域生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を育成する	地域と連携することで主体的に学ぶ機会を多く設定する	A	A		
		実習,体験を通して,実践的に学ぶ機会を多く設定する	A			
情報科	魅力ある教材の作成情報の科学的理解	生徒に応じた教材の選定（研修旅行事前学習・本の紹介プレゼンテーションなど）	B	B	B	文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方や、図書館と連携した「本の紹介」の展示、プログラミングの基礎などに取組んだ。共通テストに向けた指導が課題。
		情報モラルやセキュリティ,最新機器に関することの実際の事例による理解の深化	B			
農業科(京都ﾌｫﾚｽﾄ科)	林業に関係する最新の知識や技術の習得を目指すと共に,京都フォレスト科が持ち得る特性を活かした教育活動を実践する	演習林や木材加工棟での実習を充実させる	A	A	A	最新鋭の機械を使用した実践的な授業を展開し、山林管理や木工製品、ログハウス等の製作に取り組んだ。目的とする教育効果を上げると共に、収益実習としても効果を上げ、産業の魅力を教える中で生徒の力を伸ばすことができた。今後も継続して、機械の性能を十分発揮させられるよう教員のスキルアップが重要である。
		林業における最新の知識や技術の向上を目指し,実学に基づいた経験,体験を実践する	B			
	職業教育,産業教育を通して,社会で必要とされる人材の育成を目指す	実学に基づいた経験,体験から自己肯定感を高揚させ,社会を生き抜く「確かな力」や「社会人基礎力」の向上に寄与する	A	A		

教科	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
総合的な探究の時間（１年）	北桑田地域の自然,郷土史,民俗芸能を学術的・体験的に学び,その中にある地域社会の課題に対する最善解を周り人々と協力しながら求めていく生き方について考える	第１学期（知識・理解）,第２学期（体験及び研究小論文の作成）,第３学期（小論文論旨発表または英作文によるレポート及び口頭試問）という年間指導計画を創造的に実践する	A	B	B	本校の特色である「地域と共に育む、学力向上システム」の基盤学習と位置づける本領域においては、新学習指導要領の領域目標、中央教育審議会が答申した普通科改革の方向性から鑑みて、他校の模範となる水準まで到達している。本年度は、京都市・上桂川漁協等と連携した新たな事業にも取り組み成果を上げた。 次年度、課題作文の作成文から論旨発表、英作文によるレポート作成から口頭試問において、質的向上を意識した指導計画の改善にさらに務める。
		普通科キャリアデザインコースは,講義及び体験学習,フィールドワーク,地域交流を通して,自ら設定したテーマについて,研究小論文としてまとめた上で,論旨発表を行う	B			
		普通科文理探究コースは,講義及び体験学習を通して感じたことを英作文〔文字数指定〕でレポートし,英語指導助手の添削指導を受け,その後,英語指導助手に対して要約説明を行うとともに,質問に応答する	B			
総合的な探究の時間（２年）	異文化理解を深化させながら,知識や経験を英語で適切に伝え合うことができるコミュニケーション能力を養成する	生活の中で学んだことや感じたことを,生徒同士で相互に伝え合う機会を増加させる	A	A	A	学校近隣にある飲食店の英語メニューを作成することで、日常的に学んでいることを地域貢献に活かすことができた。 交際交流で本校を訪れたデンマークの学生との交流を通じ、英語学習への動機付けを高めるとともに異文化理解を深めることができた。
		ALTが母国の文化や慣習を伝える活動を増加させる	A			
総合的な探究の時間（３年）	・地域社会に生きる一人の人間としての自覚を高め,地域の魅力を発信することによってコミュニケーション能力や情報を取捨選択してまとめる力,表現力の育成をめざす　・異文化理解を深化させながら,知識や経験を英語で適切に伝え合うことができるコミュニケーション能力の養成する	地域に発信、提案するプランを作成する事で学習への意欲を向上させる	A	A	A	発表では､相手に伝えるための工夫が多く見られた。 地域の魅力や活性化に向けた課題を見つけて発信するために、知識や情報を取捨選択してまとめる力、自分の考えをまとめて表現する力や態度が養われた。
		実際にプレゼンテーションをすることにより,表現力の向上をめざす	A			

学校関係者評価委員会による評価	・北桑田地域の過疎化、高齢化、少子化が予測以上のスピードで進んでおり、その余波が生徒募集にも件著に現れている。 ・少人数の高校規模でありながらも、文武両道を実践し学習面、部活動ともに生徒たちの活躍の様子が伺える。 ・旧北桑田郡内においても生徒募集つながる広報活動はしっかり行ってもらっているが、特に、今日まで北桑田高校に関係していなかった家庭（小学生や保育園児等）に今以上に北桑田高校の良さや魅力が伝わるように努めてほしい。 ・京都府立大学系属高校として教育内容を充実させ、さらに魅力的な北桑田高校として生徒募集につなげてほしい。 ・生徒数の減少がPTA活動や後援会活動等においても限界にきているため役員体制や人数の見直しが必要である。 ・部活での世界大会、アジア大会での活躍や全国大会での入賞を毎年続けていることは素晴らしい伝統である。
次年度に向けた改善の方向性	・京都市内の中学生が北桑田高校に進学希望を持つためにも、スクールバスの実現や寮の改築等、ハード面での支援を学校運営協議会としても引き続き求めていく。 ・生徒募集につながるのであればPTAやOBの方々に加えて、学校説明会や懇談会等の場面で、学校運営協議会も積極的に協力していきたい。 ・ボランティア精神だけに頼らず他校や他地域からも情報を集めて、学校行事や取り組みの中で改善につながる事は即、行っていけるよう努力する。